図書館大好き！の会　第６回ワークショップ記録

日時：２０２２年5月８日（日）午後２時～４時４０分
場所：鶴川市民センター　第２会議室
参加者：１５名　鈴木　高橋　為我井　手嶋　川又　篠田　青木(全体会まで参加)　田中市議　桜井
清水　薗田　梅澤　米永　庄司　富岡(グループ討議の時間から参加)

１．　自己紹介と４月１５日のシンポジウム感想

（高橋）初めて使った会場だったが、会場の職員の対応が良くなかった。

（為我井）参加できなかったが、録画をみられるとうれしい。

（手嶋）辻さんの講演は、少し短かったが、内容はよかった。パネルディスカッションでは、意見交換の時間が少なく、意見を言いっぱなしの感は免れない。園田さんのまとめは適切だった。

（庄司）当初会場申し込みが少ないと聞いていたが、当日は５０何人が集まってよかった。

（篠田）参加していない。今日の集まりでは、大きな方針は決まっているところから話すのか知りたい。

（川又）辻さんの講演はユニークだった。

（青木）講演でフランスの図書館のあり方が聞けてよかった。仕事の中でも絵本の大切さを再確認。
青木さんの多摩中央図書館建設の話では、地域の思いが大切と受け止めた。冒険遊び場に関わっているが、最近子どもたちは折り紙をするとき黄色と青ばかり持ってきたり、ロシアの国旗をグチャグチャにしたりすることがあり、戦争と平和について子どもたちとどう関わっていけばいいのか悩む。

（田中）講演で、図書館が人生の節目節目において大切な場所であるというところが、印象的だった。他の国の図書館を知ることで自分たちの図書館のことも見直せる。今は資料が不足しているのが残念。司書の待遇にも取り組んでいきたい。

（桜井）事例参考になった。直営がいいというだけでは具体的でない。市民の側から動けることについて話せればよかった。

（清水）辻さんは、楽屋で、久しぶりで緊張するとおっしゃっていた。終わってからもあれも言えばよかった、これも言えばよかったと言っておられた。図書館は、入館数など数字で実績を表すものではなく、人々の人生の中で、きちんと対応できる場所であることを感じた。困ったときに助けてもらえる場所だと。以前学校図書館で子どもたちと関わっていた時には、子どもたちに困っているときには図書館においでと伝えていた。今の図書館がそのような役目を果たしているのか？とおもってしまう。

（薗田）多摩市中央図書館で市民が参画する図書館づくりをしてきた青木さん、指定管理を研究する伊藤さん、市民自治の山口さんたちパネラーの方にそれぞれ図書館の重要性を話していただき、今の町田の状況をどう変えさせるか、突っ込んで議論たかった。舞台では、話が聞こえにくく、時間も短くて十分に掘り下げられなかったのが残念。

（梅澤）辻さんのお話に惚れ込み、「図書館で遊ぼう」を図書館でリクエストしたが、駅前図書館にはなくて、鶴川図書館の書庫にあった。図書館の本は、辻さんも言っておられたが、探しにくい。表示が原因かと。他の本(直木賞受賞本)のリクエストでは２８０人待ちと言われ、驚いた。待ち人数の多い本が多い。意外とたくさんの人が図書館を利用していると感じた。

（鈴木）辻さんの「火の女シャトレ―公爵夫人」を読んでいるが、書くにあたって実にたくさんの資料を調べていることがわかった。辻さんのような方から自分のような一般の者まで幅広い人にとって図書館は必要なものと感じた。

（米永）辻さんの講演が良かった。

2．　今の状況について（鈴木）

３月議会前、文教委員会の議員をまわり、資料を渡して話をしてきた。議会では、市民協働型図書館について多くの文教委員がどのようなものする方針なのか、図書館の専門性について質問したが、これから市民と話し合って決めると答弁して、はっきりとした答えはなかった。昨日図書館の担当者に聞いたところ、「プロポーザルの予定通り進められる状況、業者は事務的な仕事をし、市も関わる」とのことではあった。業者選定は５月いっぱい、６月契約となる。プロポーザル説明書には、「地域の居場所を作るために鶴川図書館をコミュニティ機能を併せ持つ市民協働型の運営へと転換」とあるが、仕様書の中の業務内容には、１番目に今までのヒアリングや市主催のワークショップの結果をもとにした「鶴川図書館運営計画素案の作成」とあって、次にそれをもとにして運営団体結成支援業務と書かれている。一から市民と図書館が共に考えるのではなく、丸投げされた業者が作った素案をもとにして、図書館機能よりもコミュニティ機能を優先した、図書館ではないものになるのではないかという懸念がぬぐえない。

3．　２つの他市区の事例を紹介(直営で市民協働型の実現例と直営で人件費削減の実現例)と提案

①　市が言う**「市民協働型図書館」を直営で**何年もかけて実現してきた北区の事例：
2004 年度の「新中央図書館基本計画」策定の際に時代に合った図書館を区民も一緒に考えようということで「区民とともに歩む図書館委員会」を設置。それから 2 年かけて委員会が検討を続けた結果、現在の図書館ボランティア団体のネットワーク組織「北区図書館活動区民の会」ができ、以来様々な活動を図書館と協働して行っている。(同区民の会のリーフレットを資料配布)　本当の市民協働は図書館が市民とともに時間をかけて作り上げるべき。

②　市が鶴川図書館を市民協働型にしようとする一つの目的の**人件費の削減を直営で実現**している多摩市立図書館の事例：鶴川図書館と同規模の 3 つの地域館の 3 つのパターンの人件費を紹介(資料配布)

・10 時～17 時開館の東寺方図書館では、常時 4 人体制を 4 人の会計年度任用職員 4 人と非常勤一般職 0.7 人で回している。

・平日 10 時～18 時、土日 10 時～17 時の聖ヶ丘図書館では、常時 4 人体制(正規 2 人+会計年度 2 人+非常勤一般職 0.9)

・聖ヶ丘と同じ開館時間で窓口業務を委託の唐木田図書館では、6 人体制で 9 人のスタッフ

③　提案：市民協働で直営を維持する方法として、北区のように市民と図書館について話し合い、提案や協力をする方向と同時に、鶴川図書館の閉館時間を現在の 18 時まで開館の日をなくしてすべて 17 時までにするなど少しサービスを縮小させつつ、4 人体制で会計年度任用職員 6 人(あるいは正規職員 1 人+会計年度 5 人)+補助職員 2 人で正規職員の削減と人件費の縮小を狙う案を提案した。

4.　ロールプレイをして皆がこの問題を考えた。園田（市民協働の立場）vs 手嶋（直営固持の立場）

（注：それぞれの立場からの意見を強調したディベイティングなので、必ずしも個人の意見とイコールではないことはご承知ください。）

（手嶋）市民運営では図書館法による図書館ではなく、図書館もどきだろう。

（薗田）市民にとってみれば、本が並んでいて、本が読めて人が集まれればいいという人も多い。我々としては、市の言う「市民協働」に積極的に入っていって、理想の市民が運営する図書館を作る。本の貸し出しだけでは不足、本をめぐる交流が必要。本を土台に市民が集う図書館に。

（手嶋）図書館の基本的機能は、資料・情報提供、自館だけでなく図書館のネットワークがそれを保障。これに付け加えるのはいいが、これを疎かにして、他に飛びつくなどとんでもないことだ。司書による資料・情報提供。直営の職員が公的に保障する以外にあり得ない。図書館の場合、資料・情報を自分たちの図書館だけでなく、他の図書館、美術館、博物館、類縁機関から取得し、提供もできる。

（薗田）市民協働でも、中央図書館に依頼することで資料提供ができるのでは？

（手嶋）一時やることはできるかもしれないが、常時きちんと責任を果たすことは無理と思う。

（薗田）市民協働で良くなる側面はないか？

（手嶋）責任が曖昧になり、最終的には公でするべきだと思う。

（薗田）助成金をもらって司書を雇い、できるだけ図書館として近づけることで市民も責任を持てるのでは。

（手嶋）有資格者を雇うのでは、安くできない。直営の方が安い。現在常勤の司書は３割くらいしかいない。一般の正規職員を引き上げ、一般職員を専門職に切り替え、会計年度任用職員と一緒に少数精鋭でやる。

（薗田）市長選で負けた以上、市路線で行かざるを得ないのではないか。現実を踏まえて「市民協働」の枠組みに入り込んでいかなくてはならない。

（手嶋）正論を掲げて反対するだけでは受け入れられないと思うが、正しいものは正しい。

5.　フリートーキング

（薗田）現実を見据えながら、公営こそが原則、直営をという主張をあきらめず、徹底抗戦したい。具体的にどうするか。

（桜井）市民としてできることを提案すべき。しないのは無責任になる。

（手嶋）プロポーザルに対し、ステークホルダーとの対話をすることで参加する。

（薗田）いろんなグループが出てきて、まちライブラリーでもいいという人も出てくる。徹底抗戦だけでは孤立する可能性もあり、相手の土俵に飛び込んでいくしかない。

（鈴木）閉館時間を５時にすれば、早番・遅番の交代が不要になる。市の仕様書には、図書館の書棚を片付けてイスとテーブルを置いて市民の居場所をつくるようなことが書いてあったが、図書館の書棚を減らさず、図書館の向かい側にある書庫を整備し、換気をよくし、交流や居場所スペースを作るということもできるのでは。このことは前から図書館に伝えている。

（手嶋）北区立中央図書館（資料プリントあり）の市民協働も、直営だ。町田では、図書館協議会が図書館長の諮問機関であり、十分機能するのではないか。

（鈴木）「北区図書館活動区民の会」は、会のリーフレット(資料参照)によれば、図書館の情報を入手し、課題を共有、解決の工夫、自己能力の向上と社会参加・貢献、人とのつながり、図書館機能や運営の検討・提案も行うもので、　図書館協議会ともボランティアの会とも異なる。区民が「北区立図書館」のパートナーとして活動できる非営利団体組織。これができるまでには

「区民とともに歩む図書館委員会」を 2004 年に設置して検討を重ね、2007 年に会を設立。

（篠田）今の市の計画では、直営なしで、予約受け渡しはできると言うことか？
市民協働の直営はできるか？

（高橋）運営団体とは指定管理業者なのか？それとも別の形なのか？

（鈴木）市は里山交流館のイメージか。最初は住民たちに委託し、慣れてきたら指定管理にした。
しかし、地元の人たちでできる里山交流館と専門性が必要な図書館とは違う。

（庄司）市はプロポーザルで今の人件費 4364 万円（資料：現在の鶴川図書館の人件費と多摩市の同規模の図書館の人件費。そこからの提案）を 900 万円でやりなさいと言っているのか？

（手嶋）そうではない。900 万円は計画作成、支援業務の委託費。人件費ではない。

4．　グループ討議（二つのグループに分かれ、４時１０分まで 40 分間話し合う）

5．　発表

第１グループ

英語多読の会では、英語を中学生などに教えるなどを提案、運営団体に関わりたいというほか、次代を担う中学生の参画、再編される新中学校の図書館との連携などの案が出た、

第２グループ

市の動きを見守る。私たちの「市民協働」の定義をし、積極的に参画する。会計年度の人たちにとっては職場がなくなるかもしれないのだから、意見や要望を聞く必要がある。

業者が決定した時点でどういうつもりでやるのか、積極的に働きかけ、私たちの考えも知ってもらう。

5 月末に業者が決まるので、6 月の議会で議員さんに質問してもらう。(5/26~6/2 本会議。文教常任委員会の前にこのことについて行政報告がある）

次回の予定

６月中旬の土日

（富岡）団地建て替えについて

商店会は建て替えに賛成にまとまった。自治会が賛成すれば、話はまとまる。14 日（土）に自治会向けに建て替え説明会がある。

計画によれば、５～６年後図書館取り壊し、郵便局とともに box 棟に移転、１０年後戻るということだが、この部分はまだ本決まりではない。商店街のセンター的な存在が何年もほかに移転してしまうのは困る。

（4 時 40 分終了）　　記録：庄司、鈴木